

ハルヒ×キョン

ハルヒ「これがSOS団の予定表、サマースペシャルシリーズよっ！」

キョン「えらく詰め込んだもんだな」

ハルヒ「夏は短い、これぐらいやとかなないと損よ、損」

キョン「この夏期合宿ってのは、この間の無人島のことか」

ハルヒ「……」

ハルヒ『キョン……キョンっ！ 大丈夫！？』

キョン『痛……ようハルヒ、無事か？』

ハルヒ『無事だけど、でもあんたがっ！』

キョン『俺は二の次だ、お前がキズモノにならなくて良かったよ』

ハルヒ『！ バカ……』

ハルヒ（それから洞窟に入って……）

ハルヒ『ねえ、本当に大丈夫なの？』

キョン『平気だ、雨にあたって、ちょっと体が冷えるけどな』

ハルヒ『今あつためてあげる』

キョン『ちょ、お前なんで脱　　』

ハルヒ『……人肌で』

ハルヒ「そうそう、無人島のことよ」

長門（……そのような事実はなかったはず）

かがみ×キョン

ハルヒ「プールにも行くわよ！」

キョン「小学生かよ」

かがみ「……」

ハルヒ『さあ、泳ぐわよー！』

キョン『あんまりはしゃくなよ……フウ』

かがみ『うわ、疲れ気味ねえ』

キョン『まあな……かがみは泳がないのか？ 水着じゃないけど』

かがみ『わ、私は……お腹が気になるから……』

かがみ（……何、この中年夫婦みたいな会話……）

かがみ『ね、どっちの水着が似合うと思う？』

キョン『かがみが気に入った方を買うといい』

かがみ『もー、キョンくんの好みに合わせるのに意味があるんだから』

キョン『それなら……こっちで』

かがみ『うん、じゃあ試着してみるね』

キョン『わかった』

かがみ『キョンくん、いる？』

キョン『いるよ』

かがみ『私さ、今ハダカなんだけど』

キョン『いちいち言わんでいい！ ……しかし、外で待たされるのがこんなに恥ずかしいとはな』

かがみ『だったらさ……試着室の中に来なさいっ！』

キョン『ちょっ……！？ ひ、引っ張るな！』

かがみ（よっし、ダイエットするか！）

つかさ×キョン

ハルヒ「天体観測もやるからね！」

キョン「午前2時に？」

長門「バンプ自重」

つかさ「……」

つかさ『あっ、流れ星！ お、お願いしなくちゃ……んんっ！』

キョン『熱心だな』

つかさ『あー、間に合わなかった……』

キョン『よっぽど大事な願い事なんだな』

つかさ『……やめちゃお』

キョン『おいおい、ずいぶん諦めが早いな』

つかさ『えへへ、違うよー。流れ星に頼るより、自分でやる方がいいよね』

キョン『かがみの受け売りか？』

つかさ『うん、それに、本当にお願ひしなきゃいけないのはキョンくんにだし』

キョン『俺に？』

つかさ『私のお願ひをかなえてくれるのは、キョンくんしかいないんだよ？』

キョン『つかさ……？』

つかさ『キョンくん 私とつきあってください』

つかさ（午前2時……起きてられるかなあ？）

古泉「天体観測って、恋愛と見せかけて実は友情がテーマの歌らしいですね」

つかさ「……バンプ自重」

こなた×キョン

ハルヒ「ホタルも見れるかもしれないわね！」

キョン「それは採集するなよ」

ハルヒ「わかってるわよ、見送るのが正しいホタルとの接し方よね」

こなた「……」

こなた『ホタルってなんですぐ死んでしまうん？』

キョン『何だよ急に』

こなた『……うちのお母さんもさ、すぐ死んじゃったんだよね』

キョン『……』

こなた『私、お母さんにそっくりらしいからさ、案外私も早』

キョン『こなた』

こなた『……ぐるじいよおー、はーなーせー』

キョン『そんなこと言うな』

こなた『黙らせる方法が、抱きしめるってのはどうかと思うヨ』

キョン『お前のせいだよ……ホタルなんかには喩えるから、どっかいつちまうのかと思った』

こなた『大丈夫だよ、ホタルはあま～い水に寄って来るんだから』

キョン『甘い……？』

こなた『キョンキョンが私を想ってくれる限り、私はキョンキョンのそばにいるよ』

キョン『……わかった。約束する』

こなた『周りが見送るしかないぐらい、あま～い関係を見せ付けてやろうZ E』

こなた（こうして意外な一面を見せると、フラグは立ちやすいよネ）

みゆき×キョン

ハルヒ「釣りもやりましょ！」

キョン「やりましょ、つつつても、俺はちょっとかじった程度でほぼ素人だぞ」

ハルヒ「あたしもそんなもんよ、何とかなるでしょ」

みゆき「……」

みゆき『すみません、ここはどうすればいいのでしょうか？』

キョン『ああこれは……みゆきは、釣りとか初めてか』

みゆき『はい、やったことがないので楽しみです』

キョン『それじゃ、これだけは覚えておいてくれ、釣り人の精神なんだが』

みゆき『聞いたことがあります。キャッチアンドリリースですよ』

キョン『そういうこと……よし、これでいい』

みゆき 『どう投げるんですか？』

キョン 『こうやるんだ。やってみな？』

みゆき 『は、はい……えいっ』

キョン 『あっ』

みゆき 『……』

キョン 『……絡まったな、釣り糸』

みゆき 『キョンさんを釣ってしまいました』

キョン 『その発想はなかった』

みゆき 『あの、リリースしたくないときはどうすればいいんですか？』

キョン 『食べたり、ちゃんと最後まで面倒見るってんなら、持ち帰ってもいいんじゃないか？』

みゆき 『わかりました。絶対守りますので、よろしくお願いします』

キョン 『……やれやれ、まんまと釣られちゃったな』

みゆき (こんなにうまくは……いきませんよね)